

多賀城市の維持向上すべき歴史的風致

多賀城市には、神亀元年（724）、仙台平野を望む丘陵上に東北地方の政治・軍事の中心として「多賀城」が設置された後、江戸時代から保護顕彰活動が続けられ、特別史跡や歌枕などの歴史的環境が良好な状態で伝えられています。そして、これらと折り重なるように、塩竈街道を舞台に繰り広げられる陸奥総社宮の祭礼、貞山運河の水運、農村集落としての習俗が、歴史的建造物と一体となって良好な歴史的風致を形成しています。

古代多賀城に見る歴史的風致

神亀元年（724）に創建された多賀城は、江戸時代、多賀城碑の発見により古代の文献に見える遺跡であることがわかって以来、地元の人々を中心に守り、伝えられてきました。このような意識や景観は、いにしへの歴史や歌枕を感じ取ることができる場として、多くの人々を魅了し続けています。



多賀城政庁跡



句作にいそむ人々



多賀城碑



宮城郡八幡巴天童氏屋敷並びに家中・足軽屋敷絵図(1681年)



- 古代多賀城に見る歴史的風致
- 農村集落に見る歴史的風致
- 塩竈街道に見る歴史的風致
- 貞山運河に見る歴史的風致

農村集落に見る歴史的風致

市内の集落には五穀豊穡を祈る祭りや講など営農に関わる信仰が現在も受け継がれており、板倉などの歴史的建造物と相まって農村集落としての風情を醸し出しています。



板倉

南宮神社

神興渡御

塩竈街道に見る歴史的風致

塩竈街道を舞台に繰り広げられる陸奥総社宮の信仰と祭礼が今日まで受け継がれるとともに、街道沿いには江戸時代以来の名所旧跡が今なお残っており、街道の佇まいや風景を今に伝えています。



陸奥総社宮社殿



塩竈街道を通る神興

貞山運河に見る歴史的風致

米輸送のために開削された貞山運河では、今日でも物資輸送等に利用され、船が往来する風景が江戸時代以来続いています。また、明治期に始められていた燈籠流しが現在でも続けられており、数多くの燈籠が水面に浮かぶ姿は夏の終わりを告げる運河の恒例行事となっています。



運河をゆく漁船

運河の石積護岸

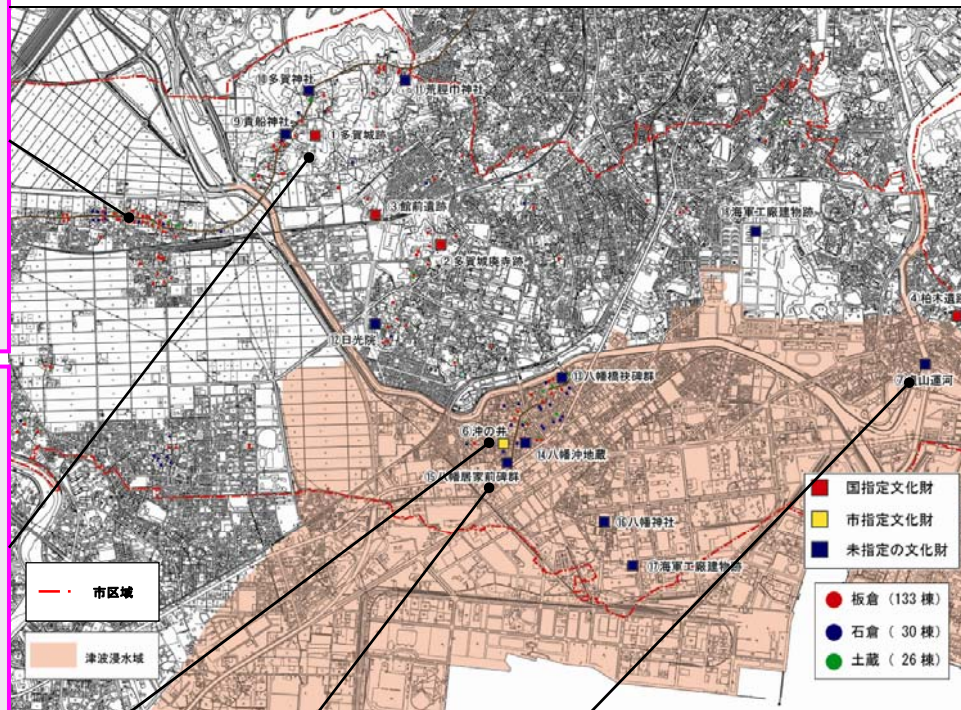
燈籠流し

「東日本大震災」による多賀城市内の歴史的風致等の被災状況（津波浸水域表示）



塩竈街道

塀や街道沿いに展開する住宅・板倉が崩落・倒壊等の被害を受けました。



個人所有の板倉等

地震被害により、個人所有の板倉等も多くが壊滅的な被害を受けました。



特別史跡多賀城跡附寺跡

地滑りや便益施設の損傷などの被害がありました。



沖の井

津波の浸水を受け、コンテナが流入し、フェンスなどをなぎ倒しました。池内には瓦礫が散乱しました。



八幡居家前碑群

津波により瓦礫が流入し、石碑が倒伏しました。



貞山運河

地盤沈下と津波の被害により、中州部分の石積護岸の滑落・崩壊や、左岸側の護岸崩落がありました。



多賀城市の重点区域における施策・事業概要

多賀城南門復元事業、政庁－南門間道路整備事業、 南北大路整備事業、特別史跡多賀城跡附寺跡跡環境整備事業

歴史認識の向上と市内外への周知を図るとともに、震災復興のシンボルとするため、発掘調査結果及び学術的見地にに基づき多賀城南門を立体復元します。また、南門復元に合わせ、政庁跡と南門を繋ぐ道路整備を実施し、特別史跡の一体的な整備を図ります。



塩竈街道修景事業

震災による復旧を図る上で、道路の美化、説明板の設置、公共施設の整備、板塀の復元等により歴史的風致周辺の環境改善を図ります。



歌枕環境整備事業

震災で損傷した沖の井周辺の、歌枕の地の周辺環境を復旧・整備し、かつての歌人たちがあこがれた歌枕の地の景観を再現します。



被災文化財保全活動

震災により被災した文化財等について、調査を実施し、保存措置を講じるとともに、調査資料の展示公開を図ります。



板倉等調査・保存・活用事業

震災で壁などが崩落した板倉・石倉・土蔵等の築年・構造・状態等の情報を収集します。維持・保存を奨励し、歴史的風致の維持向上に寄与します。改修時には費用の一部を助成します。



その他の計画掲載事業

- ◇無電柱化事業
- ◇大路広場整備事業
- ◇案内板・情報施設整備事業
- など・・・

良好な景観形成に関する施策

- 都市計画
 - ・壁面後退や用途制限などの規制を策定し歴史的景観や町並みへ配慮する
 - ・重点区域のほぼ全域に高さ規制を設ける
- 景観計画
 - ・市民参加の下、歴史的風致の維持向上に繋がる景観、地域の文化に根ざした景観を形成するため、景観計画を策定する
- 屋外広告物
 - 景観計画による屋外広告物の規制・誘導

